

## <ベスト住まいる> マタイの福音書 8章 18-22 節

普段私たちの生活の中で祈る時に、いつも共にいてくださるイエス様を思い起こして祈ることは多いと思います。けれども、自分の前を先立って歩いておられる主のお姿を思い起こして祈ることはあるでしょうか？

いつも主イエス様の背中が見えていることが大切です。その背中で、私たちが背負うようにして、私たちの先に立ってくださいます。

**『狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、  
人の子には枕する所也没有。』**

どうしてイエス様は、枕するところもないような、そのようなところに天から降って来なければならなかったのでしょうか？



17 節のイザヤ書の言葉の引用。

**『彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った。』**

このお方は私たちの病を負われたから、枕する所がない生活をしておられる。その生活は何も私たちと全く違った特別な生活をなさったということではない。むしろ、イエス様は私たちと同じ生活をしてくださっているのではないか。私たちの不信仰と思い煩いの満ちた生活を共にしながら、そこに見えてくる私たち人間の正体が見えてくる。それは国が国を侵略し、好き勝手に欲しいものを奪い合う。そうしながら必死に自分の憩いの家を得ようとしている人間の姿。

私たちのわずらい、病とは何か？それは私たちが本当の家、故郷を失っている事である。主イエス様はそのような私たちの病を担っておられるから、このお方は人の子として、枕するところを持たないのである。

6 章『**空の鳥を見なさい。**』

イエス様は故郷を失っている私たち呼びかけておられる。天の父があなたがたの父でいてくださるのだ、その父の愛のもとに帰ろう。そのために、『あなたはわたしについて来なさい』と、そう言われるのです。

『わたしに従いなさい。いますぐ従いなさい。死人たちに彼らの中の死人たちを葬らせなさい。』これを家族の葬儀を禁止する言葉だと読むならば、それは大きな誤解！

イエス様、私には今世話をすべき父親がいます。きちんと最期まで介護をしてあげたいのです。それが終わったら、あなたに従います。これは私たちも思い当たる節があるかもしれない。

あれが終わったら、これが終わったら、、、もうちょっと真面目にあなたに従います、と。けれども、それはほとんど無期限の延期をしているようなもの。そうではなく「今すぐに従いなさい。」イエス様はそう言われる。

むしろ私たちは忙しい仕事の生活に耐えながら、あるいは子育てに悩みながら、そういう生活をしながら、けれどもいつも主イエス様の背を見つめて、このお方に従っていく。このお方を見失ったら、あの悩み、この悩みを、どうやって担い抜くことができるの？

『死人たちに彼らの中の死人たちを葬らせなさい。』

これはまるで、ただ死の力だけに支配された世界。今まであなたがたが知っていた葬儀は、葬儀を挙げている人たち自身も、死の支配に捕らえられているような葬儀でしかなかった。けれども今は違う。わたしがあなたのそばにいるではないか。

『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』

イエス様は私たちの人生にそのような光を投げ込んでくださった。そのような主イエス様の背中を見つめながら歩み続ける。そこに幸いな弟子の歩みがあるのです。

